

子どもに夢を！たくましく豊かな創造性を！

2023年9月15日

第27号

すくらんぶる

活動情報

9/4 高学年活動部会

9/5 祭典事務局会議

9/7 理事会

9/29 劇場代表者会

10/19 祭典事務局会議

10/24 例会企画調整

11/14 乳幼児活動部会

12/7 理事会

乳幼児部会主催

「子育ての知恵袋～わらべうたを学ぼう～」講師 大沢 愛さん

2023年6月17日(土) アルカス SASEBO・第2リハーサル室 参加者31名

乳幼児部会では、実践の場に活かせる学びとして乳幼児に関わる大人の研修を積み重ねています。昔からそれぞれの地域でも受け継がれている“わらべうた”が、なぜ乳幼児に良いのかを学ぼうと表現教育家の大沢愛さんをお迎えして、乳幼児のあそびの場にわらべうたを取り入れ、また日頃の子育ての中で親子のふれあいとして家でも楽しめる“わらべうた”のワークショップを企画しました。

参加者は、青年から年配の大人まで幅広い年齢層で、大沢さんの優しい語りかけと歌声に包まれて自然に笑顔でいっぱいになりました。身近なジャンケンあそびからスタートし、まず“大人がほくれる”というのはこういうことなんだと実感できました。わらべうたを歌いながら手や指を使ったり、体をゆすったり、またお手玉あそびも年齢や成長と共に変化していく優れものでした。何もなくても、ちょっとした隙間時間でも、子どもたちとの楽しい時間がつくれる。また、気持ちを切り替えたり、繰り返すことでできるようになったり、わらべうたの魅力を存分に体験することができました。映像を通しては、4ヶ月と9ヶ月の子のそれぞれの”見て真似る”様子の違いがよくわかり、わらべうたは子どもの発達や成長に沿って楽しめるものだと感じました。目と目(心)を合わせる、人は一生人の輪の中で育つこと、安心の中で人を信じる力・自分を信じる力が育まれていくこと、そして大人はその力を信じて待つこと。わらべうたは本当に子育ての知恵袋、学ぶことが多いお話でした。

大沢さんが最初に問いかけられた「だれに手渡しますか？」は、この企画を主催した乳幼児部の部員の想いとも重なりました。感想の中に「わらべうたに込められた思いや発達をうながす機能・役割を知ることができ様々な場面で取りいれられるといいなと思いました。」「小さい時からたくさんうたってあげるのがその子の今の成長と、大人になって子どもたちへ手渡すということへつながっているんじゃないかなあと思いました。」など、私たちの意図をしっかりと受けとってくれた方が多かったことはとても嬉しいことでした。また、乳幼児と遊びたくなったとの感想もありました。

これからも、わらべうたが地域のいろいろな場所で届けられることが楽しみになりました。今回のワークショップでは新しいわらべうたを知るだけではなく、昔から受け継がれてきたわらべうたを通して、子どもを地域で見守る大人の想いの深さをあらためて知ることができました。物心つく前に五感で感じたわらべうたの記憶は、自然の風景や人のぬくもりと一緒に潜在的にからだにしみ込んでいくのだろうと思います。乳幼児と関わる大人として、このような学びをさらに継続していきたいと思いをしました。

※大沢愛さんよりメッセージをいただきました

「紫陽花の咲く頃」

湿った空気、時折降る静かな雨、刻々と夏が近づく気配を感じながら、長崎県内を一巡りした10日間。

今回のツアーでは、「かぜのうた」上演を軸に県連総会での講演会、大人対象のわらべうたワークショップの機会も作っていただきました。「かぜのうた」は劇場の例会の他に、こども園、子育て支援室、保育園での上演が実現しました。更に園の先生方と連携し、何度も働きかける中で保護者の皆さんが半休を取るなどして、通い慣れた園舎で子どもと共に鑑賞するという奇跡も叶いました。こうした一連の取り組みは、大人たちが考え語り合い、舞台を体感し、子どもの姿を捉え、そして地域の多様な人と場所に活動を届ける、まさしく「0才からの文化権の保障」そのものと言えるものではなかったでしょうか。大人の価値感、大人への選択が地域社会を変え、子どもたちの文化環境を守る要。この旅を通して、長崎の地にたくさんの大人の仲間、同志を得た想いです。また、お会いしましょう！心からの感謝を込めて。



大沢 愛

人は輪の中で育つ ～ベイベーシアターの広がりと共に～

大沢 愛さん 講演会

2023.6.10(土) 諫早市立図書館 参加者 38 名



通常総会と同日の企画で、大沢愛さんに講演をしていただきました。お母さまが事務局として関わられていた子ども劇場を自身の原点とし、その後、「表現教育」「ドラマ教育」を学び、「わらべうた」と出会い、子育てをしながらはじめての作品づくり…。悩んだ時に先輩からもらった「なにもあせる必要はない。子どもからたくさんのことを学べるはず。今しかできない子どもとの時間を楽しんで」という言葉。出会っていく子どもたちの持つすごい力、可能性、希望と出会う日々。「子どもは自ら育つ力を持っている」そのことにリスペクトし関わりながら、いかにその育ちを見守り待つことができるか。舞台芸術は、その楽しさの優位性の中で、人がそこにいるという関係・環境、継続的な見守りをもつことができる。ベイベーに、平和であることと、基本的な信頼関係を。子が生まれ、そこから水の波紋のようにゆるやかに輪が広がっていく、その中で共に育ち合っていこう！と、私たちに、子どもと関わる上での大切なことを伝えてくださいました。



お話の後、「幼い子どもと対等な関係を結ぶというのは、どういうことか。どうしたらいいか。」との会場からの質問に、「自分の感覚としては、チューニングを合わせる感じ。その子が何を感しているかを、それをいかに感じ取れるか。」と答えられていました。

「自分(のまま)で大丈夫」と、自分自身が解放されないと、人のことはなかなか入ってこないし考えられない。大人がほぐれると、そこにいる子どももほぐれる、「かぜのうた」はそんな作品。ぜひ、みなさんにもベイベーシアターに出会ってほしいし、一緒に輪を広げていってほしい、とメッセージをいただきました。



通常総会

<出席：正会員 15/19、書面 3、委任 1 >

講演会の後、午後からは第 22 年度通常総会が開かれました。団体正会員である 4 つの子ども劇場のうち壱岐子ども劇場はオンライン参加、会場に 16 名が集まりました。前年度の事業報告ならびに決算報告。役員選出の後、事業計画と予算もすべて承認され、新年度スタートとなりました。3 年を超えるコロナ禍を経て、徐々に対面での活動も以前のようにできるようになってきました。



連絡会事業として、子ども劇場をはじめとした文化諸団体の連絡連携・交流学習、

子ども舞台事業として、長崎県のすべての子どもたちに向けた「0 歳からの文化権の保障」を目指し、第 28 回となる長崎県子ども舞台芸術事業をはじめ、舞台コーディネイト事業などに取り組みます。

この春、「こどもまんなか」をスローガンに〈こども家庭庁〉が発足、子どもの権利条約にのっとり基本的人権の保障など 6 つの基本理念から成る〈こども基本法〉が制定されました。子どもの意見を聴いてそれを子どものための政策等に活かすことが明文化されています。しかしながらまだまだ「子どもの権利」が義務や責任を果たした上のものであるという認識がはびこっている現状です。まずは子どもたちに「生まれながらもっているあたりまえの権利」について伝える取り組みが求められます。

第28回長崎県子ども舞台芸術祭典 ＜35主催35日38st＞

期間 2023年 7/6(木)～8/1(火)
参加者数合計 4332名

県北

『子どもたちをみつめる、子どもたちの地域をみつめる』をテーマに、1996年に長崎県子ども舞台芸術祭典が始まりました。8市32町を駆けめぐり108ステージを実現し県北地域では、平戸市(飛鳥児童数8名)・松浦市(青島)・佐世保市(度島・高島)と懐かしい地域が思い出されます。

28回目を迎えた今年度、県北では13の地域の皆さんに出会うことができました。1回目から実施されている小佐々地域が名称を変えながらもまだまだ祭典が続いています。また、久しぶりのもみじが丘自治会の公演は、地域の皆さんの力を感じました。

そして、上演団体の祭典にかける熱い気持ちや暑さとの戦い、祭典に関わるスタッフの想いなど、実行委員会の皆さんと共に“生の舞台”を続けてきました。

先が見えない社会状況で困難にぶち当たりながら、今後も“子ども、地域、文化芸術”をキーワードに祭典が推進できればと県北スタッフ一同来年に向かい、心を躍らせています。



五つ星☆実行委員会



壱岐子ども劇場

第28回祭典の県央地区は、昨年コロナの感染拡大を受けて取り組みを中止せざるを得なかった実行委員会が取り組むことができました。

壱岐(1日1ST)・対馬(4日4ST)・東彼杵(1日1ST)・島原(1日1ST)・南島原(1日1ST)・大村(1日1ST)・諫早(5日7ST)13実行委員会16公演でした。コロナ禍の中、ソーシャルディスタンス、密を避ける、マスク着用などを強いられていた反動からなのか、どの公演会場も子どもたちの反応はコロナ前よりものびのびと開放され、笑いもハラハラも響き広がっていくのを感じた今年の祭典でした。壱岐では、壱岐子ども劇場が地域の子育てサークルの方々から作品決めから

取り組み、公演に向けて開催した事前ワークショップに参加した皆で描いた「もしもの世界」の絵が、当日会場前に彩りを添えていました。参加者は、乳幼児を含め80名を超えました。対馬は、教育委員会主催と厳原南保育園主催に加え、今回初めて豊玉ふれあい広場(子育て支援センター)が公演を取り組みました。公演前日の創造団体移動日は、九州に線状降水帯が発生し高速道路通行止め、一般道渋滞又は冠水、移動に支障をきたす事態に遭遇。フェリーに乗れなければ公演中止ということも頭をよぎるほどでした。対馬上陸後も線状降水帯に見舞われましたが、対馬初日、初参加の豊玉公演はなんとか開演に間に合いました。コロナの期間、取り組みを見送られていた東彼杵町教育委員会主催公演は4年ぶりでしたが、270名近く、同じく島原のとことこ劇を観る会も210名の参加があり、地域の人達が公演を待ち望んでいたことが伝わって来た取り組みでした。諫早では、きてみんね!久山台実行委員会が子ども会の役員さんと話し合いを積み重ね、子どもたちの関わりなども話していききました。子どもたちが作製した「サクラがいく!」の大きな看板は、公演当日まで通学路でアピールしていました。また、諫早の複数の学童で実行委員会をつくらせている「夢と笑顔の王国」は、各学童の指導員が何回も集まり公演まで共有する時間を作り臨まれました。公演当日は、指導員も子どもたちと一緒に大いに笑っていたのが印象的でした。単独で取り組まれる学童公演も1つから2つに増えましたが、良い取り組みにつなげていくためには、祭典の目指すものの説明や公演当日までの打ち合わせなど丁寧な関わりが、必要だと思いました。次回に向けての課題です。また、今年は線状降水帯の恐さを感じた取り組みでもありました。より安全な公演開催に向けてどう判断するか、今後検討していく必要を感じました。

県央



豊玉ふれあい広場

県南

県南地区は、五島の三井楽、長崎市、長与町で、合わせて9公演が取り組まれました。そのうち4公演は学童クラブの主催です。コロナ以前は合同で集まっていたのですが、今では感染防止のため単独での実施が多くなっています。それでも今年は実施できる場所が増え、どの会場でも「前のめり」で舞台に食い入る子どもたちの姿が印象的でした。上演団体も共通の感想として「コロナ禍でどうなるかと子どもたちの状況を心配していたが、公演で出会った子どもたちの反応、観入る姿に、子どもたちの力を感じた。うれしかった!」と言っておられました。

学童公演以外は地域の実行委員会主催。毎年継続して取り組んでいるところがほとんどです。今年の祭典を終えてスタッフで振り返る中で語られたのは、継続の中で子どもたちの育ちです。自分たちが暮らす身近な地域での公演、主催者の一員として搬入搬出の手伝い、会場設営、受付係など、慣れた様子で自ら身体を動かし楽しく働いている姿は頼もしい限り。見守る大人たちはそんな子どもたちの様子が誇らしく、継続して取り組む意義を感じました。

コロナ禍で1~2年実施を見送った3つの実行委員会が1つになって力を合わせ実施した地域もあります。動ける実行委員が少なくなったり、財政的な心配を抱えながら、一緒に取り組むことで支え合い、そして集まってワイワイとおしゃべりしながらの実行委員会は何より元気の源!ピンチもみんな笑いで換えて底力を発揮!「来年は3公演ぐらい取り組めるかもね!」「来年は実行委員会に新しい人を誘おう!」と今から張り切っています。



三井楽バラモンキッズ実行委員会

子ども劇場 舞台鑑賞情報

★参加方法などについては各地の子ども劇場事務局までお問い合わせください。

作品名 (劇団名)	あざみ寄席 (長崎あざみ落語会)	12人の怒れる男たち (東京芸術座)	とんからり(劇団風の子)	
月日(曜)	9月17日(日)	9月18日(月・祝)	9月25日(月)	9月26日(火)
開演時間	14:00	15:00	19:00	19:00
会場	アルカスSASEBO 第2リハーサル室	佐賀市文化会館	諫早文化会館 中ホール	メルカつきまちホール
主催	佐世保子ども劇場	佐賀子ども劇場 ながさき子ども劇場	諫早子ども劇場	ながさき子ども劇場
作品名 (劇団名)	OMURA室内合奏団 コンサート (OMURA室内合奏団)	○△□ちゃん (GEKIDAN AFRICA)	パッティパタパ (GEKIDAN AFRICA)	マイ・クロ・シアター (OHオフィス)
月日(曜)	11月19日(日)	12月2日(土)		12月19日(火)
開演時間	13:30	11:00	18:30	19:00
会場	山澄地区 コミュニティセンター	ブリックホール国際会議場		諫早文化会館 中ホール
主催	佐世保子ども劇場	ながさき子ども劇場		諫早子ども劇場

NPO 法人 長崎県子ども劇場連絡会

〒850-0057
長崎市大黒町 4-26
北村第一ビル 303 号室
TEL: 095-825-0533
FAX: 095-825-6151
E-MAIL: n.kogeki@alto.ocn.ne.jp

県内子ども劇場

ながさき子ども劇場
TEL: 095-825-0533

佐世保子ども劇場
TEL: 0956-22-6747

諫早子ども劇場
TEL: 0957-23-5689

杵岐子ども劇場
TEL: 0920-44-5010

Web サイト

<http://www.nakogeki.sakura.ne.jp/>

発行

NPO 法人長崎県子ども劇場連絡会

★編集後記★

8/5に喜多方で開かれた「第5回子ども・おやこ劇場活動交流会」にオンライン参加した。閉会時に司会者が「私たちは合意形成の文化を育ててきた。それは確実にく平和につながる。」と締めくくった。

8/26～27には、鹿児島県発の〈共通体験・交流学习〉の企画に、長崎からも青年2名・高校生5名と一緒に参加してきた。水俣の町に実際に足を運び、公設と民営2つの異なる資料館を見、現地の人々の話を聞いて、「民主主義とはなんだ?！」をテーマにグループで語り合った。どのグループからもたくさんの気づきや紡ぎ合った言葉が伝えられた。

あらためて思った。本当に私たちはよく話し合う。むしろ「多数決」で決めることなどほとんどない。子どもも若者もよく話してくれる、伝えてくれることがなんとうれしいことか。そして自身、伝え聴き合う場に今日も支えられ立っていることを認識する。子どもの声を聴こう。(Y)

団体概要

子どもの豊かな成長と地域の子どもの文化芸術振興に寄与することを目的に2002年にNPO法人として活動を開始しました。長崎県内にある4つの子ども劇場や、子どもに関わる団体や個人の方とのつながりを大切にしなが、地域の文化活動を支援しています。長崎県子ども舞台芸術祭典や舞台公演のコーディネイト、講演会や学習会などの事業を行っています。

子どもに夢を!たくましく豊かな創造性を!

私たちは子どもの文化を応援します。

<p>社会福祉法人 小野保育園 諫早市小野町 676-2 TEL0957-23-0120</p>	<p>タイツタチバナ 有限会社 林田車体工業 〒854-0126 諫早市松里町 288 TEL 0957-23-5318 FAX 0957-24-1378</p>
<p>ますみクリニック 〒850-0952 長崎市戸町2丁目20-57 OKホーム&ガーデン戸町店横 弁慶岩バス停前</p>	<p>古豊歯科医院 長崎市小峰町 3-16 ☎ 095-843-4165</p>
<p>ホテルウイング・ポート長崎</p>	<p>〒854-0072 諫早市永昌町43-6 医療法人 マツオ内科クリニック TEL 0957-25-2225 FAX 0957-25-2220</p>
<p>文明堂総本店 長崎市江戸町1番1号 TEL 0120-24-0002</p>	<p>長崎和泉屋 雲仙市愛野町乙 5864 ☎ 0120-54-1238 月曜～土曜 受付時間 9:00～16:30 FAX 0956-58-3637 24時間受付(年中無休)</p>